みなみ風

学校教育目標　人間力を高め，未来にはばたく児童生徒の育成
合言葉　私たちの最上位目標は，子どもの幸せ
学園だより　令和４年１月21日　第31号　みなみ学園義務教育学校

寒さを吹き飛ばそう！

１月６日から降った雪。児童クラブのみんなは，さっそく雪だるま作りです。

１月14日（金），３～６年生が，体育館で書き初め大会を行いました。それぞれ２時間かけて，一筆一筆心を込め，書に向き合いました。題材ですが，３年生は「友だち」，４年生は「明るい心」，５年生は「新しい風」，６年生は「将来の夢」です。１・２年及び後期課程生の皆さんは，冬休みの課題として書き初めを行い，作品を提出しました。現在，各教室の廊下に作品が掲示されていますが，その全校児童生徒の作品を，２月18日の授業参観時にも見ていただけるようにしたいと思っています。詳細については，また「みなみ風」でお知らせします。

1/16（日）７・８年生　第59回県下中学校交歓笠間市駅伝大会で大健闘

部活動の終了時刻は，日没時刻に合わせてあり，冬場は16:30完全下校になっています。練習時間は30分ほどしかありません。運動部のみんなは，合同で走り込みを行うことも多くあります。その走り込みの成果を，県下中学校交歓笠間市駅伝大会で発揮しました。大会を終え，私は子どもたちに「一人一人の精一杯の走りをまた見ることができてよかったです。『がんばって』と声をかけると，みんなの走るスピードがぐんと上がるので，応援の力ってすごいな，と思いました。これからは，今まで以上に仲間を応援できるみなみ学園をつくっていきましょう。」と伝えました。素晴らしい好天の中，保護者の皆さまからも応援をいただき，ありがとうございました。子どもたちの「やりきった」満足そうな表情が，とても素敵です。

みなみ学園マスコットキャラクター「ぽち」です　よろしく！

学校サポーターの佐藤先生が，みなみ学園のマスコットキャラクター「ぽち」を手作りしてくださいました。図書委員会の子どもたちからのリクエストを受けてです。まず，図書委員会で「座った柴犬の絵」６種類から１種類を選びました。その次に，名前の原案を６つ考えました。その後，各クラスで６つの名前の中から一つ選び，投票の結果，「ポチ」に決定しました。（２位の「おもち」とは僅差だったとのこと）２年生の子どもたちなどは，「ポチバイバイ。また明日ね。」とポチの頭をなでてから下校します。ご来校の際は，図書室前にいる「ポチ」を，どうぞご覧ください！

新型コロナウイルス感染症第６波により，子どもの感染が増えています。最大限の注意を！

「宇宙の日」記念　全国小・中学生作文絵画コンテスト（JAXA 主催）で
6 年生　長堀　奏音さんが小学生作文部門でグランプリ（日本一）に！

大快挙です！6 年生の長堀奏音さんが「宇宙の日」記念全国小・中学生作文絵画コンテストでグランプリ（日本一）を受賞しました。おめでとうございます。表彰式は，鹿児島県の種子島とのこと。ここで，受賞作を紹介します。

宇宙スタンプラリー

今日は、待ちに待った宇宙スタンプラリーだ。ぼくは、日本代表としてロケットに乗り込んだ。スペースコロニーに集まった、各国の応えん団が見える。

「リフトオフ！」

発しゃの合図と共に、七カ国のロケットが飛び立った。月、火星、ガニメデ、カリスト、水星の五つの天体でスタンプを集める、宇宙スタンプラリーの開まくだ！

「絶対一位を取るぞー！」

「オー！」

ぼく達が最初に目指す天体は、月だ。ぼく達の横を、ロシアの宇宙船がものすごいスピードで通り過ぎる。

「は、速い！どうやったらあんなスピードが出せるんだ！」

ぼく達の目は、ロシアの宇宙船にくぎ付けになった。ぼく達だって負けてない。月面着陸はお手の物だ。二番目にスタンプを押すと、次々に宇宙船が近づいてくる。ぼく達は、急いで火星へ飛び立った。

火星に近づくと、ロシアはもうり陸の準備をしていた。ぼく達はその上を通り過ぎ、南極へと向かう。ロシアのクルー達は、着陸しない事を不思議に思ったことだろう。ぼく達は、南極でやらなくてはいけない事がある。それは、水のさいくつ作業だ。ぼく達の宇宙船は、氷を分解して燃料にできるのだ。大きな氷をロボットアームで細かく割り、おわん型の機械に入れる。すると自動で氷を解かし、水を電流で水素と酸素に分解する。水素は燃料、酸素はこきゅう用、水はろ過して飲料水になる。ぼく達は、この燃料で最後にラストスパートをかけるつもりだ。スタンプ台に向かうと、すでに二機の宇宙船がやって来ていた。ぼく達は四位に順位を落とし、次の目的地ガニメデに向かった。

ガニメデは、今回のスタンプラリーの中間地点という事もあり、多くの国がここでの燃料ほきゅうを考えているようだ。カナダは、ぼく達と同じく、氷を燃料にしているらしい。船外活動クルーが氷を運んでいるのが見えた。

「あっ探査ロボットだ。」

下が車、上が人間の形をした、アメリカの探査ロボットが、ドリルで地面をけずっている。宇宙船につながったホースで、水を送っているようだ。中国は、船外活動クルーが、ほきゅう船から、物資や燃料を運んでいる。みんなが燃料ほきゅうをしている中、ぼく達はカリストへと向かった。

カリストの表面は、クレーターが太陽系で一番多くあり、着陸がとても困難だ。

「このままでは他の国に追いつかれてしまう・・・。」

ぼく達はあせったが、なんとか安全な場所を見つけることが出来た。スタンプ台までの道のりも、とてもデコボコで、探査機を使って移動する事にした。

ぼく達は二位のまま、水星に着いた。すると、ずっと前にいたはずのロシアの宇宙船がまだスタンプ台の近くにいる。エンジントラブルを起こしてしまったらしい。何か手伝えることはないか聞いていると、アメリカのロケットが近づいてくるのが見えた。

「早く行ってくれ。ぼく達の分も一位を取って！」

そう言ってくれたロシアのクルー達を、ぼくはそのまま置いていくことが出来なかった。ぼくは、宇宙船にもどり、仲間達に相談した。

「もちろん、置いていくわけにはいかないよ！」

「でも重量が・・・そうだ！探査車をおろしていこう！」

ぼく達は探査車をおろして、ロシアのクルーをむかえ入れた。

「ありがとう。」

「いっしょにスペースコロニーに向かおう。」

ぼく達の目の前を、アメリカの宇宙船が飛んでいる。まどの外にはゴール地点のスペースコロニーが見えた。

「もう少しだ！ぬかせるか？」

残りの燃料を全て使い、加速する。体に大きな G がかかる。

「どうか一位になれますように・・・」

目をぎゅっとつむり、心の中でいのった。その時、ドン！という大きな音と共にかん声が上がった。

表しょう式。ぼく達はアメリカにわずかにおよばず二位だった。ロシアは、きけんあつかいになってしまったが、ぼく達はいっしょにゴールできたことがうれしかった。一番大きなはく手がぼく達に送られた。アメリカのクルーも、その他の国のクルーも、みんなぼく達をしゅく福してくれた。ぼく達は、宇宙スタンプラリーで、他の国の技術だけでなく、助け合うことの大切さも学んだ。これからも色々な国と力を合わせ、宇宙開発をすすめていきたい。

（「他の国の技術だけでなく、助け合うことの大切さも学んだ」の部分に温かさや未来を感じます。感動。　　文責：野尻）